

I 事業の概要

I-1 事業の概要

事務事業名 ホームページアドレス	自動車環境対策	所管局部課等	環境政策局環境企画部環境管理課
		(連絡先)	213-0930
		(評価票作成者)	環境管理課長 宇高 史昭

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方針 現状のまま継続	24予算額 (千円)	目標達成度評価													
				かなり悪い	悪い	普通	良い	かなり									
5,719	3,143		1,730	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	110%	120%	
	□ 直営	委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容 委託先：株式会社矢野経済研究所 京都市自動車環境対策計画(案)策定の支援業務		H20年度													
	■ 部分委託			H21年度													
	□ 部分補助等			H22年度													
	□ 全部委託																
	□ 全部補助等																
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)	京都市自動車環境対策計画 京都市地球温暖化対策条例			事務事業の 性格	□ 義務的事業	■ 任意的事業											
開始時期	平成 2 年度	終了(予定)時期	平成	類型	11 その他												
				会計区分	■ 一般会計	□ 特別会計											

事業概要	対象	(誰を、何を) 自動車に起因する大気汚染、騒音、振動及び温室効果ガス排出量
	活動内容	(どのような手段で) 平成13年3月に策定した自動車公害防止計画に基づき、市バスへのエコカーの導入、公用車購入車種指定制度、民間事業者へのEV・PHV、エコカー導入支援などで、低公害車の導入促進を行っている。また、学識経験者、国・府の機関、自動車関連事業者団体及び自動車メーカーで構成された「京都市自動車環境対策協議会」で、次期「自動車環境対策計画」の策定に向けた協議を実施し、エコカーの普及や車の共同利用(カーシェアリング)、物流の効率化の推進、エコドライブ普及など各種の対策について協議を行っている。
	目的	(どのような状態にしたいのか) 「京都市自動車環境対策計画」の目標に掲げる「京都市環境保全基準」を早期に達成し、維持するとともに、温室効果ガスの排出を削減する。 「京都市自動車公害防止計画(平成13年度～平成22年度)」の成果の評価を行うとともに、「京都市自動車環境対策計画」に掲げた目標及び進ちょく指標の達成に向けて取組の強化を図る。

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)	13,062	3,474	5,719	3,143	1,730
		負担金補助及び交付金(低公害車等導入等)	12,828	552	387	928	916
		需用費(資料印刷等)	111	37	196	914	150
		報償費(協議会委員謝礼)	48	90	400	1,100	520
		その他(旅費、会議室使用料等)	75	157	274	201	144
	①'	委託料(計画見直しに係る調査)		2,638	4,462		
	②	委託料が事業費に占める割合(①' ÷ ①) (%)		75.9%	78.0%		
	③	人件費(24年度は見込)(千円)	8,605	12,532	12,740	17,227	16,408
		職員(課長級)(人)	0.14	0.23	0.13	0.12	0.12
		職員(課長補佐級、係長級)(人)	0.25	0.30	0.50	0.75	0.75
		職員(係員)(人)	0.50	0.80	0.75	1.00	0.90
		嘱託職員等人件費(千円)					
	④	年間経費(①+③)(千円)	21,667	16,006	18,459	20,370	18,138
	⑤	特定財源(市税等の一般財源以外)(千円)					
		国庫・府支出金(千円)					
		受益者負担分(使用料、手数料等)(千円)					
		その他()(千円)					
	⑥	京都市年間負担経費(④-⑤)(千円)	21,667	16,006	18,459	20,370	18,138
	⑦	受益者負担率(受益者負担分÷④)(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

II 評価結果

事業名 自動車環境対策

II-2 業績評価 (II-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略)

A 目標達成度		指標名	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度		
指標1	大気に係る京都市環境保全基準の達成率	目標値 …①	率	率	16	19	100	100	100		
		実績値 …②	率	率	11	13	68				
		目標達成度 (②÷①)	%	%	68.8%	68.4%	68.4%				
指標2	エコカー普及台数	指標の種類	増加することが良いとされる指標	評価	普通	普通	普通				
		目標値 …①	台	台	6,500	10,500	12,000	15,000			
		実績値 …②	台	台	5,516	9,483	集計中				
		目標達成度 (②÷①)	%	%	#DIV/0!	145.9%	#VALUE!				
指標の種類	増加することが良いとされる指標	評価	#DIV/0!	かなり良い	#VALUE!						
		総合評価									
指標の選択理由		目標値設定の考え方									
指標1	市民の健康を保護し、快適な生活環境及び良好な自然環境を保全するうえで維持されることが望ましい大気汚染に係る京都市環境保全基準が定められていることから、各測定局における測定項目ごとの京都市環境保全基準の達成率を指標とする。					平成21年度までは各測定地点における測定項目すべて基準を達成することを目標値としていたが、項目数は年度によって増減するため、平成22年度以降は達成率（測定項目数に対する達成項目数の割合）を目標値					
■ 指標変更の有無	■ 有 <input type="checkbox"/> 無	変更前の 指標名 大気に係る京都市環境保全基準の達成項目数			適用年度	平成21年度まで	単位	項目			
指標2	市民の健康を保護し、快適な生活環境及び良好な自然環境を保全するうえで維持されることが望ましい大気汚染に係る京都市環境保全基準が定められていることから、その達成を目指すため、大気汚染発生源の対策としてエコカーの普及台数を指標とする。					京都市では、NO2・CO2の排出状況に課題が残っており、この解決のため、環境負荷の少ないエコカーの普及が必要不可欠であることから、自動車環境対策計画に基づいて目標設定をした。平成23年度から指標に追					
■ 指標変更の有無	□ 有 <input type="checkbox"/> 無	□ 指標名		適用年度		単位					
分 析	<実績値の変動理由等> 自動車排出ガス測定局（6局）において、全測定項目19項目[N02（6箇所）、SPM（6箇所）、CO（6箇所）、SO2（1箇所）]が、保全基準値を達成することを目標にしている。近年の実績値については、SPM、CO、SO2は全ての測定局で保全基準を達成しているが、NO2は改善傾向にあるものの、すべての自動車排出ガス測定局で未達成である。測定結果は概ね横ばいであり目標達成度については変動はない。										
B 効率性		No.	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度				
B 効率性		①	低公害車普及モデル事業における補助台数	台	22	17	12				
		②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）	千円	21,667	16,006	18,459				
		③	単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	984,845	941,527	1,538,212				
		④	単位当たり経費変動率			-4.4%	+63.4%				
分 析	<コスト変動の理由等> 平成21年度と比べ、平成22年度の経費が増加したため効率性が悪くなった。 車種やリース年数により補助額が異なるため、平成21年度と比べ、平成22年度は1台当たりの補助額が増加した。また、効率性の指標を「低公害車等保有台数（本市公用車）」から「低公害車普及モデル事業における補助台数」に変更した。					評価	良くなつた	かなり悪くなつた			
C 市民参加度		企画段階 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 無	<現状分析、今後の方針等> 学識経験者、国・府の機関、自動車関連事業者団体及び自動車メーカーで構成された「京都市自動車環境対策協議会」のもと、新しい自動車環境対策計画の策定、取組結果の取りまとめをしているが、新計画の策定に際しては市民意見の募集を行い、多数の意見を得ている。								
D 市民満足度		<調査の有無>		<調査結果、現状分析等>							
		□ 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない									
		<調査方法> <調査時期>									
E 環境保全及び環境負荷軽減の要素		■ 環境 <input type="checkbox"/> 関連 <input type="checkbox"/> 一般	<現状分析、今後の方針等> 二酸化窒素（NO2）に係る市環境保全基準については、自動車排ガス測定局の全局において未達成ではあるが、経年的にはゆるやかな改善傾向にある。								
平成23年度の実施状況	5月及び7月に開催した自動車環境対策協議会、およびパブリックコメントの結果を踏まえて、8月に「クルマのかっこいい利用を進める 京都市自動車環境対策計画(2011-2020)」を策定した。										
市会・監査・外部機関等からの指摘											

III 今後の方向性

(今後の方向性の理由及び具体的な内容)

現状のまま継続

平成23年度に策定した京都市自動車環境対策計画の取組事項を着実に実行していく必要がある。なお、平成24年度経費の削減については、計画策定を終えたことによる減少である。